

★令和5年度 全国学力・学習状況調査について

加古川市立平岡北小学校

6年生を対象に実施された全国学力・学習状況調査では、国語・算数の学力調査と児童質問紙による学習環境や生活状況を知る調査が行われました。その結果の概要をお知らせしますが、この結果をもって、児童の学力全体を評価できるものではありません。本校では、結果を分析し、今後の学習指導や学習環境の改善に生かしていきたいと思えます。

国語科

平均正答率が全国・県・市平均を少し上回っています。評価の観点別に見ると、「知識・理解」は全国・県平均を少し下回り、「思考・判断・表現」は全国平均を上回っていました。出題の趣旨別に分析していくと、「知識・理解」の観点の中で正答率が低いものとして、言語の特徴や使い方に関する事項の「漢字を文の中で正しく使うことができる」「送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使うことができる」「敬語の使い方」などが挙げられます。しかし、「原因と結果など情報と情報との関係について理解する」ことにおいては、かなり正答率が高かったです。さらに、「思考・判断・表現」の観点では、「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる」ことが正答率が高く、読みとったことをまとめる力が伸びていることが伺えます。そして、全国・県平均よりは上回っていますが、全国的な傾向として、選択式に比べ記述式の回答の正答率が低くなっています。

児童質問紙（国語科に関するもの）

「国語の勉強は大切ですか」（97.3%）「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思えますか」（96.4%）という質問に対して、殆どの児童が、肯定的な回答をしていて、国語の学習の意義を自覚しながら、学習に取り組んでいます。また、「国語の授業内容はよくわかりますか」（92.0%）という質問にも肯定的な回答をしている児童の割合が高く、学習したことをよく理解し、さらにそれらを活用していこうとする意識ももっています。これらの肯定的な回答の割合は全国・県の平均を上回っています。「国語の授業で、言葉には相手との好ましい関係を作る働きがあることについて学んでいます」（93.8%）「国語の授業で物語を読むときに、登場人物の性格や特徴、物語全体を具体的にイメージし、どのような表現で描かれているのかに着目している」（87.5%）などの項目について、特に肯定的な意見の割合が高く、言葉の力や表現にも目を向けて深く学習しようとする様子が見られました。「国語の勉強は好きですか」（56.2%）の回答は全国・県平均を下回り、今後の課題と考えます。

これらの結果から国語科では、児童の関心・意欲を大切にしたい授業の構成を工夫し、自分の考えを表現することが楽しいと感じられるような場の設定を増やしていきます。また、漢字の書き取り練習にも工夫を凝らし、ただ書く回数を増やすのではなく、漢字の成り立ちや意味などにも触れながら丁寧に文字を書くことを指導したいと思えます。国語の学習の意義を自覚している児童が大多数を占め、人間関係を作るうえでもコミュニケーションの大切さに気付いているので、教師はさらにその意識が高めていけるように授業を構成していきます。

算数科

平均正答率が全国・県・市平均をかなり上回っています。評価の観点別に見ると、「知識・技能」もかなり上回り、「思考・判断・表現」は、それ以上でした。領域別では、すべての領域で全国・県の平均をかなり上回り、特に「数と計算」「図形」の正答率は高かったです。出題の趣旨別に見ていくと、「台形の意味や性質について理解している」「加法と減法の混合した整数の計算をしたり、分配法則をもちいたりできる」（知識・技能）、「示された日常生活の場面を解釈し、小数の加法や乗法を用いて、求め方と答えを式や言葉を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断できる」「示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見出した違いを言葉や数を用いて記述できる」（思考・判断・表現）といった内容の正答率が特に高かったです。問題に対して、深く考え、それを言葉で表現する力が伸びてきていることが伺えます。さらに、本年度は毎年、全国的にも正答率が低い「記述式の解答」の正答率が高かったことも注目すべき点と考えられる。

児童質問紙（算数科に関するもの）

「算数の勉強は大切ですか」（94.4%）「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思えますか」（93.8%）という質問に、殆どの児童が、肯定的な回答をしていて、算数の学習の意義を自覚しながら、学習に取り組んでいます。「算数の授業内容はよくわかりますか」（93.8%）という質問には、全国・県よりもかなり肯定的な回答をしている児童の割合が高く、学習したことをよく理解できたと感じています。しかし、「算数の勉強は好きですか」（62.5%）（全国平均と同程度）という問いにたいしては、他の質問に比べて、肯定的な意見の割合が低いことが今後の課題です。

これらの結果から算数科では、2年前から取り組んでいる協同的探究学習の成果がしっかりと表れています。特に思考・判断・表現の能力の伸びがよく見られ、知識・理解においても相乗効果となって伸びが感じられます。問題を解決するために見通しをもち、筋道を立てて考えを進め、言葉や数、式、図、表、グラフを用いて、考え方や解決方法を理由付けしながら表現するという協同的探究学習をさらに継続し、児童が興味を持って取り組める課題設定や問題に対していろいろな解き方ができるような設定を工夫していきます。そして、「できた」「わかった」「こんな考えもできる」「みんなに説明できた」といった成功体験を重ねることで、算数の学習が楽しいと感じられるようにしていきたいと思います。

生活実態調査

(児童質問紙調査より 主に、百分率 (%) は「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童の割合)

《生活習慣》

「朝食を毎日食べていますか」91.9% (全国・県平均をやや下回る) 「毎日、同じぐらいの時刻に寝ていますか」83.1% 「毎日、同じぐらいの時間に起きていますか」91.1% (全国・県平均を上回る)

一日の生活リズムが身に付いており、安定した家庭生活をおくれている児童が多いです。寝る時刻が不規則になっている児童には、学校でも睡眠の大切さについて指導していくとともに、ご家庭での声掛けをお願いします。

《自尊感情》

「自分にはよいところがありますか」89.3% 「将来の夢や目標を持っていますか」81.3% 「人の役に立つ人間になりたいですか」96.5% (ほぼ、全国・県・市平均を上回る)

児童の中には自己肯定感や向上心が育っていると考えられます。今後も、失敗を恐れず挑戦していくたくましさや育っていくことが、本校が目指すところであり、体験的学習の充実やキャリア教育などを通じて、将来の夢や目標に向かって積極的に行動する児童を育てていきたいと考えます。

《規範意識》

「人が困っているときは、進んで助けていますか」88.4%
「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」94.7% (全国・県平均を下回る)

この結果からも規範意識の高さが伺えており、今後も道徳科を中心に全教育活動を通して、心の教育に力を入れていきます。

《学校生活》

「友達関係に満足していますか」92% 「自分と違う意見について考えるのは楽しいですか」84%
「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」(88.4%) (全て全国・県平均を上回る)
「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」90.1% 「学校に行くのは楽しいと思いますか」75.1% (全国・県平均を下回る)

児童はおおむね学校での生活を楽んでいるようで、今後もより良い人間関係作りと児童の自主性を大切にしたい教育活動を行っていきます。さらに、不安を抱えたり、自信をもちにくい児童へのきめ細やかな対応も心掛けていきたいと思っています。

《家庭学習》

「学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、一日どれぐらいの時間、勉強をしますか」

（学習塾等の時間や家庭教師やインターネットを活用して学ぶ時間を含む）

3時間以上 8.9% 2時間以上3時間未満 15.2% 1時間以上2時間未満 28.6%

30分以上1時間未満 31.3% 30分未満 11.6% 全くしない 4.5%

「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」 68.7%（全国平均をやや下回る）

家庭における学習習慣が身に付いている児童が多いです。さらに、自分で計画を立てて学習するなど、今後も主体的に学習に取り組む態度を伸ばしていきたいと考えています。

《読書の習慣》

「学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、一日どれぐらいの時間、読書をしますか（教科書・マンガは除く）」

2時間以上から10分までと差はありますが、「読書をする」と答えた児童は77.6%です。「読書は好きですか」

75.9% 「新聞を読んでいますか」ほぼ毎日から、週1～3回程度、月1～3回程度と差はありますが、新聞を

読むと答えた児童は29.5%です。（全国・県平均を上回る）

読書をする児童の割合は全国・県平均を上回っていて、読書をしないと答えた児童の割合は、下回っています。今後も、読書タイムなどを取り入れながら、読書に親しむ態度を養っていきたいです。

《地域とのつながり》

「今住んでいる地域の行事に参加していますか」71.5%（全国・県平均を大きく上回る）

「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか」82.2%（全国・県・市平均を上回る）

この結果は、新型コロナウイルス感染症の影響で地域での活動が制限される中でありながらも、児童は地域や社会とのつながりを意識しており、普段から地域と児童の交流を大切にしている地域性の表れといえます。

《ICTを活用した学習》

「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」92%（全国・県・市平均を少し下回る）

「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか」

ほぼ毎日 17.9% 週3回以上 35.7% 週1回以上 27.7% 月1回以上 11.6% 月1回未満 7.1%

（毎日から週1回以上の頻度は、県平均と同程度、全国平均を下回っている）

昨年度から、クロームブックが導入され、児童の使用頻度も増し、児童のICT活用能力も向上しています。しかし他県に比べて、活用時間が少ないことから、積極的に活用をしていくことが必要だと考えます。しかし、ICT機器の活用が児童の興味を喚起し、学びを深めさせると同時に、過度なICT機器の活用は視力低下や姿勢の悪さ、実体験の減少なども生み出すなど課題も含んでおります。そのあたりをしっかりと吟味し、使用時の情報モラルについても触れながら、さらなる有効活用を目指したいと思います。

《英語科の学習や外国への興味関心》（今年度より質問紙に追加）

「英語の勉強は好きですか」77.7% 「英語の勉強は大切だと思いますか」95.5% 「外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知りたいと思っていますか」78.6% 「日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思っていますか」83%（すべて全国・県平均をかなり上回る） さらに、「家庭学習の課題(宿題)として、どの程度 PC・タブレットなどの ICT 機器を使用して、英語の音声を聞いたり英語を話す練習をしたりしていますか」（週3回、週1回、月1回程度などの解答において、全て全国・県平均を上回っていた。）

外国語科（5・6年）と外国語活動（3・4年）ではALT（外国語指導助手）と担任が連携して、授業を行っていますが、児童は英語に興味・関心を持って、主体的に学習ができています。これからも、学習内容を工夫しながら、楽しく学習が進められるようにしていきたいと考えます。

《主体的・対話的で深い学び》

「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか」73.3% 「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」86.6% 「5年生までに受けた授業は、自分に合った教え方、教材、学習時間になっていましたか」86.6% 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」88.4%

「学習した内容について、分かった点や、よくわからなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」84.8%（すべて全国・県平均を上回る）

「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思いますか」85.7%（全国・県平均を大きく上回る）

「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」81.2% 「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか」78.6%（全国・県平均をかなり上回る）

「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」83.9%（県平均は上回り、全国平均と同等）

「学級活動」「総合的な学習」「特別の教科道徳科」の中で、話し合い活動の意義を理解して、自分の考えを持ち、さらにそれを表現する方法についても工夫をするようになってきています。今後も、自分の考えを友達と共有し合うことで、さらなる考えに深めていけるような学習活動を繰り返し行うことで、主体的で対話的な深い学びの力を伸ばしていきたいと考えます。2年にわたって取り組んできた算数科における協同的探究学習の成果から、これからは算数科に限らず他教科においてもその力が伸ばせるように取り組んでいきたいと思います。